



きゅうけいばしょ。

---



たくさん たくさん  
がんばって

たくさん たくさん  
我慢した君だから

たくさん たくさん  
甘えてもイイんだよ。

さよなら、またね。

---



信じている…。

この“別れ”は  
“またね…(さいかい)”に繋がっている、と…。



遥か遠い國を彷徨う旅人は  
やがて  
平穩の中で皆の記憶からも消えゆく・・

止まらない涙の雨は  
やがて大きな河となって  
愛する人達を包むのでしょうか？



誰もがどこかで“無理”してる。

けれど、

僕は大人じゃないから、

いつだって、自分のことでいっぱい  
他の誰かも頑張っていることに気付けない。

いつだって、

自分の心だけを選んでしまう・・。

そんな弱さを知って  
また“無理”をしてしまうのにね・・。

慣れないで..

---



慣れてしまわないで..  
我慢すること。

慣れてしまわないで..  
泣かないこと。

慣れてしまわないで..  
疼く傷痕の痛みに..。



はめ間違えた 1 ピース

それに気付かず  
どんどん どんどん  
ピース(カケラ)を合わせてゆく..

出来あがるパズルは とてもいびつで..

ただ スキマだらけの間違いに  
一体、何時 気付けるの..？



あの日 僕等の住む箱庭(エデン)は  
音も無く 閑(しず)かに崩れていった・・  
無音の世界(セカイ)の中で  
ただ 僕等は祈りだけを繰り返してたんだ・・

白い六花(はな)が天空(そら)から舞い堕ちる  
堕ちては消え逝くその六花(はな)が  
世界を静寂と凍結という破壊で満たしてゆく・・  
こんな美しく儚い終焉(おわり)があるなんて・・

沢山の魂(ほし)が流れる夜空(そら)  
独りきりの僕が見上げる  
埋葬(送る)詩(うた)を閑(しず)かに紡ぎながら・・  
落涙(なみだ)と共に・・

この心(むね)に在るのは  
誰かの遺した願い(想い)でしょうか？





弱い自分が歯痒くて 悔しくて、  
どこか 意地になっていた。

素直に認められれば 受け止められるのに、  
素直に認められれば 苦しくないのに・・。

けれど、僕はまだまだ不器用だから・・

きっと、今日も繰り返してしまう。  
“辛い事(センタク)”だって、分かっているのにね・・。



言葉の毒に中(あ)てられて、  
言葉の薬にいやされて、  
一喜一憂を与える言ノ葉(たましい)たち。

出逢うことが恐くて、嬉しくて、哀しくて…

さあ、貴方は、  
言ノ葉を遺しますか？ 消しますか？



君に沢山の事を伝えたいのに  
うまい言葉が見付からないんだ。

ねえ 願いだけは  
君の心(もと)に届くのかな..?



手離せない大切なもの。  
年月と共に増えた守りたいもの。

ただひたすらに守っているつもりだった。

でも、ある日気付いたんだ・・。  
自分が“守っている”と思っていたものに  
自分が“守られている”ことに・・。

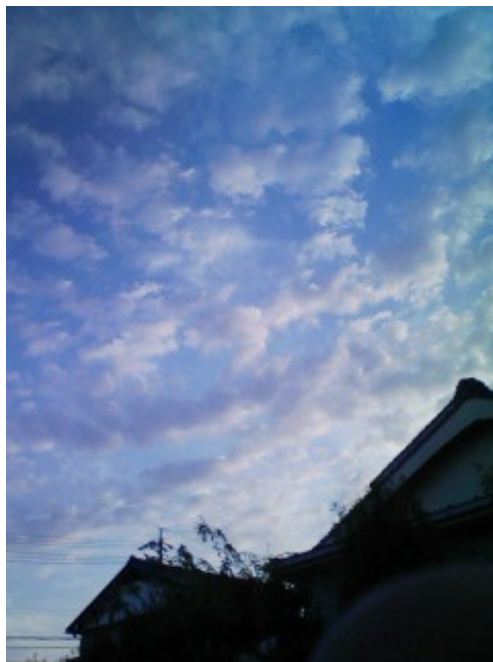


誰かの心を明るく照らす  
太陽になりたい。

誰かの心を優しく燈す  
月になりたい。

誰かを強く支える太陽に・・

誰かを優しく見守る月に・・



大好きな言葉を集めて  
大好きな君に贈ります・・。

君の心をあたたかく灯してくれます様に・・。



どこまでも 真っ直ぐな線路みたいに生きていきたい

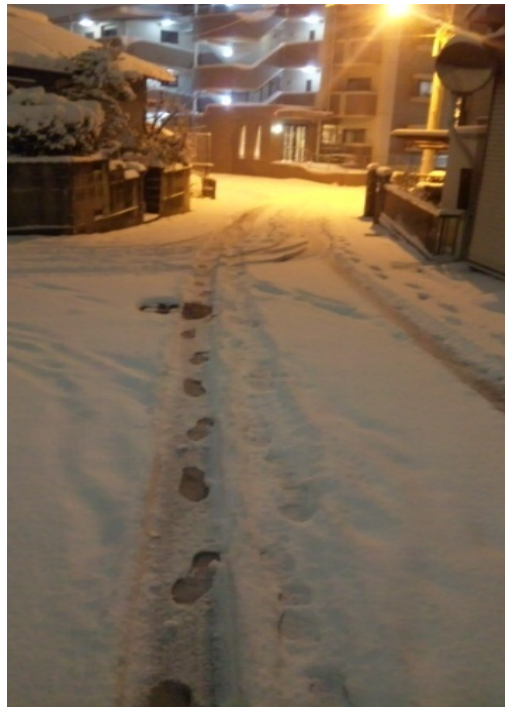
多少 まがったり、枝分かればあっても  
ねじれることのない線路。

そんな“道”を生きてゆきたいんだ。

そんな“道”を造ってゆきたいんだ。

選んで 遺して..。

---



伝えたい気持ちがいっぱいあって..

伝えられる言葉はほんのちょっとで..

じゃあ、それを選ぼうか。





望むモノ

全てが手に入ったらいいのに・・

僕らの願いは果てないけど、

それでも、

沢山 沢山 求めるモノがある。

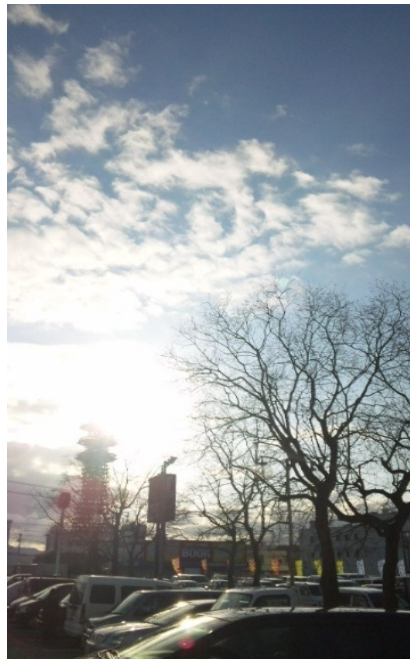
そんな中で

手に入れられるのは

ほんの一にぎりの結果(ホントウ)。

僕の速さで。

---



焦ったり の～んびりしたり..

そのペースは その時々。

でも

それが「僕」のペース。

届けモノ。

---



今日は君に逢いにゆきたいな。

たくさん たくさん  
言葉を用意して・・・。

願いをこめて..。

---



1 ページ1ページに刻まれた想いは

何時か 誰かの心(もと)へ

運ばれてゆくのだろうか. . .



幸福(幸せ)だけが流れるこの河の元では

哀しみの泪(しずく)も

洗い流されてゆくのだろうか・・・？



だんだん慣れてしまったんだ 僕等は  
諦める事 手離す事に  
でも 何処か諦められない未練があって..  
“ホントにそれでイイの?”  
何て 誰かの問い掛け待ってる  
そうすれば きっと 其所からまた始められるから..

沢山の願いの中で  
やっぱり僕は手離してしまうんだ  
すぐに後悔してしまうと分かっているけど..

諦めかけて 手離しそうになった大切なモノ  
グッとたぐり寄せてくれたのは “君” でした



ふと見付けた道端(かたすみ)の花に  
壊れない様そっと触れ 微笑んだ

ささやかな幸せなんて 何時から忘れたままなの？  
全てのミライ信じるチカラ 僕にまだ残ってる？

僕等は今もフラフラと迷っては漂う雲の様  
道端に咲く花の様な強さを求めては  
届かずに何度も諦メテしまうよ。  
暗雲の隙間(くもま)から注ぎ込む光が  
何時か 僕等にも届く日が来るかな  
誰かの優しい言ノ葉と共に・・



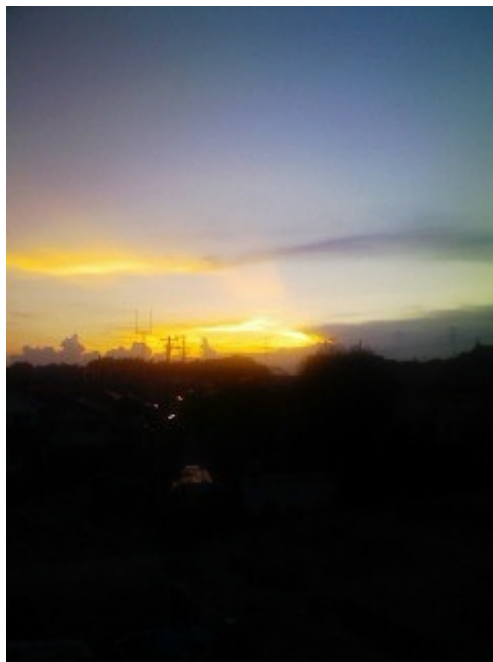
僕等は、大人になるにつれて  
処世術を知って(きょうになって)いくけれど、  
その分、単純な気持ちを上手く表せなく(ぶきょう)になっていく・・。

大人になる方が幸せなのかな・・  
それとも・・



君の傍で・・・。

---



小さな小さな一歩だけど  
目を離さないで見ていて。

どんなに小さな一歩でも  
君には見守っていて欲しいんだ・・・。

形取るモノ。

---



溢(こぼ)れゆく小さな言葉の欠片(かけら)を  
少しずつ 少しずつ集めて

一つの気持ち(カタチ)を造り上げる・・・。



人は  
どんなに自信を持って  
ひたすらに信じた道を突き進んでいても  
やがて いつか その道に疑問を抱く。

ただただ 一つの道しか見えていなかっただけの自分に気付く。

きっと それが 本当の決断となるのだろう。



真っ白なページに  
少しずつ 言ノ葉が生まれてゆく・・・。

ポツポツと生まれるその魂たちが  
いつか 君の行く道に光を灯します様に・・・。



もしも今  
自分の望む道へと歩んでゆけば  
僕は後悔しないのだろうか・・・

何度でも・・

---



人間(ヒト)は不思議なもので  
何度つまずいても  
何度転んでも  
再び立ち上がり また歩き出す・・。

“またつまずくかも また転ぶかも・・”  
という恐怖に捕らわれる事無く・・。



今日一歩歩けたらならいいんじゃない？  
一歩も進めない日があったっていいんじゃない？  
人の歩幅なんて同じじゃない。  
誰かと比べる必要も無い。

だって もしかすると  
目的地が違うかも知れないんだから・・・。